

予防的な視点に立った いじめ・不登校への取り組みについての意見集約

高知県人権教育推進協議会

- 第1回 平成18年11月30日
- 第2回 平成19年2月20日
- 第3回 平成19年7月17日
- 第4回 平成19年10月11日
- 第5回 平成20年2月12日

高知県人権教育推進協議会では、平成18年度から2年間にわたり、いじめ・不登校について、現状や課題及び学校（園・所）や家庭、地域の果たすべき役割等の協議をしてきました。

いじめ・不登校の要因や背景は、多様で複雑に絡み合っています。今、いじめが認められない学校（園・所）、不登校を生じさせない学校（園・所）や地域社会づくりへの取り組みが急務となっていますが、いずれも人権尊重の視点を欠かすことはできません。いじめ・不登校を個別の問題として考え取り組むのではなく、総合的に取り組んでいく必要があります。ここでは、これまで開催された協議会の中で話し合われた内容を、予防的な視点に立ってまとめてみました。

「このことから始めてみよう」「あんなこともできるのではないか」と個人で、あるいは仲間や団体・組織等で柔軟に、そして深く考えていただき、積極的な取り組みがすすめられることを期待します。



学校・幼稚園・保育所

1 元気で明るい教職員(保育者)集団をつくる

- ・ 校長(園長)先生のリーダーシップのもと、学校(園・所)目標に向かって、学校(園・所)全体が生き生きと動く組織であってほしい。
- ・ 子どもの人間関係づくりの前に教職員(保育者)の人間関係づくりも大事。一人で悩みをかかえこむ教職員(保育者)がいることのないように、相談し合える、お互いに支え合える仲間、組織をつくる。
- ・ 学校に来た子どもを守り、未来を保障していく教育者としての自負と誇りを持ってほしい。

2 教職員(保育者)の研修を充実し、人権感覚をみがいていく

- ・ 人権感覚をみがき、授業力、学級経営力を向上していくための研修を積極的にすすめてほしい。
- ・ 授業研究などの校内研修では、専門性や教科の枠といったものを超え、子どもの成長に焦点をあて、個々の力を互いに高めあう研修も必要。

3 なかまづくり・学級経営を大切にす

- ・ 最初の出会いで、学級の子どもたちに先生の願い、学級づくりの考え方を話し、具体的に実践することで、子どもとの信頼関係をつくっていく。先生自らが体験や思いを語ることで、子どもも心を開いてくれる。自分自身の大切さ、仲間の大切さを日常の中で機会あるごとに子どもたちが感じ取れるように伝え、取り組みをすすめる。
- ・ 休んだ仲間を気にかける学級、いじめの傍観者を出さない学級をつくる。
- ・ 固定化した人間関係を変えるために、集団遊びや自分と仲間の良さを発見するための活動を用いた人間関係づくりをすすめる。
- ・ 生徒会(児童会)など子どもの自主的な活動を大事にし、子どもの提案から学校をつくっていく。自分たちで考え、自分たちで解決することを大切にする。

4 わかる楽しい授業、心を育てる授業を工夫する

- ・ 人との出会いの中で子どもは成長していくので、授業の中で多くの人と出会いの機会をつくる。
- ・ すべての人が、社会の大切な存在として尊ばれることを学ぶ人権教育のカリキュラムをつくり、すべての人の幸せにつなげていく。
- ・ 命の大切さを実感し、生きることの喜びなどを味わわせるなど、豊かな人権学習を通して、いじめや差別を許さない子どもを育てる。
- ・ YESかNOで回答を求める択一論的思考ではなく、しっかり考えることのできる力を子どもたちにつけていくことが、相手を深く理解していくことにつながる。

5 子どもの実態をつかむ

- ・ 高いアンテナを張り、日々の子どもの言動、友人関係や遊びの様子などに留意し、子どもの変化に敏感になる。アンケートや心理検査などを活用した取り組みをおこなう。
- ・ 子どもが荒れる背景には、不況や家庭のしんどさがある。多くの先生が子どもにかかわり、その子の行動の背景をみつめ、そこから手立てを考える。
- ・ 個々の子どもの実態に応じた丁寧な指導や対応を工夫する。
- ・ 先生は短い期間で解決しようとしがちだが、子どもの変化や成長を少し長い目でみることも必要である。

6 保護者・地域と連携する

- ・ 日頃から、通信や家庭訪問などで気持ちを伝え合える関係をつくり、家庭との信頼関係を築く。
- ・ 学校(園・所)に期待すること、地域での子どもの様子や思い、子育ての悩みなど地域や保護者の声を聴き、そこから教育をはじめの姿勢を持つことを大切にする。
- ・ はじめの対応が大切。保護者からの相談があれば、まず相手の話をじっくり聴く。
- ・ 学校のできることに、限界がある。抱え込まず、地域の方々や関係機関と連携し、外からの違う視点でみてもらい、力を借りるとまた違うやり方がみえてくる。
- ・ P T A活動を活性化して、保護者同士のつながりをつくっていく。

家庭・地域

1 子どもの話を聴く

- ・ 「親は人の話をしっかり聴きなさいと子どもに言うけど、私らの話はひとつも聴いてくれん。」という子どもの声がある。
- ・ 学校（園・所）に行き渋り、「しんどい」と言ったとき、「何が、しんどいが？」と気持ちを聴いてあげられるとよい。

2 子どもとともに学ぶ

- ・ 自分も相手も大切にすることなど人権について日常的に話をしていく。
- ・ コミュニケーションを大切にするため、子どもと保護者が何か一緒にできる時間をつくる。
- ・ 知識ばかりを求めることなく、子どもの心と体をバランスよく成長させたい。
- ・ たくさんの本と出会わせたい。それは、たくさんの人生を体験することにもつながる。

3 みんなで子どもを見守る

- ・ 地域の大人として、「おはよう、おかえり」の声かけなど、みんながあなたのことを見ているというサインを出してあげる。
- ・ 大人の思いを優先せず、子どもの気持ちに寄り添う。
- ・ 子どもの言動に敏感になる。なおしてほしいところばかりでなく、いいところを見つけて、認めてあげる。

4 子どもの居場所をつくる

- ・ 子どもが居心地よく感じられるところは、子どもが否定されず受け入れてくれる場所であり、そこには、「あなたはあなたでいい」と伝えてくれる大人の存在がある。
- ・ 居場所は、家庭のほか、スポーツ少年団、地域の集い、公民館や児童館、老人ホームなどいろいろなところにつくることができる。

5 地域でのかかわり、ネットワークづくりをすすめる

- ・ 子育てなどに不安や悩みをかかえている人は、誰かが声をかけてくれるのを待っているの、おせっかいを焼いてくれる人も必要である。孤立した保護者をつくらない。
- ・ 大人同士がつながると子どももつながっていくので、大人も日頃から話せる仲間を持つ。地域の中でつながり、人間関係をつくることで、困ったときの出口も見つけることができる。地域には、民生委員・児童委員や家庭教育サポーターなど力になってくれる人がいる。
- ・ 学校（園・所）と保護者の間に入って話し合いをコーディネートできる人や組織を育てる。
- ・ 大人があきらめない。

教育委員会・行政

1 教職員（保育者）の資質向上と学校（園・所）支援

- ・ 人権感覚をみがいていくなど、教職員（保育者）研修を充実する。
- ・ きめ細かな指導のための人的措置をすすめる。
- ・ 経験豊かな退職教員のチームをつくり、各学校に対応できる体制をつくる。
- ・ いじめや不登校は起こりうるものと、気付き取り組んでいくことを評価する環境をつくる。

2 学校（園・所）外の公的機関等の整備充実

- ・ 教育支援センターなど相談機関の整備充実を図る。
- ・ 子どもがいつでも受け入れられる場所をつくる。
- ・ 学校（園・所）と保護者、保護者同士、地域の人々をつなぐ役割のできる人を育成する。

3 縦割り組織の弊害の解消

- ・ 組織の中でのシステムや役割分担に慣れすぎることなく、状況を正しくつかみ、判断し、前に踏み出す覚悟と勇気を持った人間を育てる。

高知県の子どもを育てるうえで大切にしたいこと

自分を大切にし、他の人も大切にできる子どもを育てたい

そのために・・・

心の元気な 子どもを育てる

- ・ 愛情欲求が満たされないと発達欲求は起こらない。心が満たされて、はじめて勉強しようという気も起こる。
- ・ 大切にされた経験が、人を大切にできることにつながる。

かかわり合うことを大切に

体験活動を重視

人との出会いや自然とのふれあいを。

結果を求めすぎず
プロセスを大切に

安心して子育てができる環境をつくる

様々な状況（余裕がない、孤立している、無関心等）の子育て中の親を支援する。
地域社会全体で子育てを支え合う。
子育て、人権感覚、学力についてなど、みんなで論議していく。

子どもには未来への夢を
教師・保育者には教育者としての誇りを
家庭には子育てへの安心を

